

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R6 (最終目標)	所見
基本目標 (1) 暮らしやすさに磨きをかける			年少人口 (0歳~14歳)	人	31,931	31,771	31,731	31,579	31,341	31,484	30,877	31,202	目標に対し、1.9%届かなかった。昨年度実績よりも目標値と乖離しており、引き続き子育て支援策等の充実を図る必要がある。
			暮らしやすいと思う市民の割合	%	80.9	80.9	84.7	82.0	83.0	83.0	85.5	86.0	目標値を達成し、昨年度実績から2.5%増加した。一方、公共交通機関が不便だと感じる市民が8割近くいるなど、対応課題は残る。
①子育てしやすい環境整備													
(i) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援			子育てに大きな不安や負担を感じている市民の割合	%	44.5	44.0	40.6	43.0	37.7	37.0	43.7	34.0	全体の調査結果としては、R2年度から6%の増加となった。また、20~50代で「負担や不安を感じている」と回答した人が、R2年度で、14.6%であったのが、R3年度では、15.6%に増加している。新型コロナウイルス感染症拡大による経済的な困窮が背景にあるものと思われる。
			合計特殊出生率	-	1.54 (H29)	1.56	1.52 (H30)	1.57	1.48 (R1)	1.58	1.50	1.62	全国の合計特殊出生率は、出生数が過去最少に落ち込んだことから、1.33の低水準となっている。全国と比較すると高いが、佐賀県の1.64より低くなっている。
(ii) 働きながら子育てできる環境整備			待機児童(園指定待機児童)(保育所)	人	85 [241]	111	126 [254]	78	110 [226]	45	3 [284]	0	目標は達成できたが待機児童「0」への取り組み継続が必要。
			待機児童(放課後児童クラブ)	人	112	142	142	143	68	19	3	0	施設増設及び保育施設への運営委託により、目標値を達成し、待機児童も大幅に減少した。
(iii) 仕事と生活の調和の実現			男女共同参画推進協賛事業所の登録数	事業所	176	191	189	206	199	221	211	266	コロナウイルス感染拡大防止のため、企業への訪問を自粛したことから、目標達成に至らなかった。
			男性の1日の家事関連時間「30分未満、全くしていない」人の割合	%	55.2	55.2	48.9	53.2	44.0	51.2	40.1	45.2	新聞(紙面およびウェブ版)や市報、ホームページ等を活用し、男性の家事・育児参画を呼びかけた。
(iv) 子どもにやさしいまちづくり			「子どもへのまなざし運動」を意識して子どもと関わるようになった市民の割合	%	34.4	36.1	34.1	38.0	33.6	39.7	39.5	45.0	長引くコロナ禍の中で、通常の啓発活動に加えて、PRに工夫を加えた。例えば、健康づくり課の協力を得て、主に乳幼児の保護者に向けてのPRをしたり、まなざし参加企業の取り組みの際に協働してPRを行った。その結果、ほぼ達成水準の実績値となった。
			園児が楽しく幼稚園・保育所(園)に通っていると感じている市民の割合	%	89.7	94.8	85.7	94.8	81.1	94.8	87.8	95.0	新型コロナウイルス感染症の影響で、幼稚園・保育所(園)での活動に様々な制約が生じているが、できることを模索しながら活動を行ってきたことが前年度と比べ数値が上昇した主な要因と考えられる。
			児童生徒が楽しく小中学校に通っていると感じている市民の割合	%	87.6	87.6	81.7	87.6	79.5	87.6	81.8	87.6	新型コロナウイルス感染症の影響で、教育活動に様々な制約が生じているが、できることを模索しながら活動を行ってきたことが前年度と比べ数値が上昇した主な要因と考えられる。

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R6 (最終目標)	所見
②誰もが幸せを感じる社会の構築													
		(i) 参加と協働のまちづくり	市民活動（まちづくりや地域の活動等）を行っている市民の割合	%	33.1	42.5	24.3	44.0	27.6	45.5	28.6	50.0	新型コロナウイルスの影響により市民活動は依然として低迷しているため、今後も市民へ活動が浸透していくための取り組みが必要である。
		(ii) 一人ひとりを尊重する社会の実現	地域での助け合いが行われていると感じる市民の割合	%	70.9	71.5	73.1	72.2	73.6	72.9	77.3	75.0	10代、50代以外の年齢層は全て前回値を上回っており、目標は十分達成できたと考えられる。
			人権や同和問題に関心がある市民の割合（女性、子ども、障がいのある人、高齢者、外国人やLGBTs などへの偏見や差別、インターネットによる人権侵害など）	%	55.7	56.0	56.8	56.8	57.7	57.6	57.2	60.0	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修機会が減少したことから、目標達成に至らなかった。
		(iii) 人生100年時代のまちづくり	健康寿命と平均寿命の差	-	男性1.14 女性2.66	男性1.13 女性2.64	男性1.18 女性2.47	男性1.12 女性2.62	男性1.07 女性2.52	男性1.11 女性2.60	男性1.00 女性2.38	男性1.08 女性2.57	男女ともに目標値を達成できている。
			自分らしくいきいき生活している高齢者の割合	%	71.0	71.6	75.2	72.2	73.6	72.9	73.4	75.0	前年度から0.2ポイント低下した要因として、新型コロナウイルス感染症の影響により外出を控える高齢者も多く、日常生活に制限が生じていることが考えられる。しかしながら、令和3年度の目標値は達成していることから、今後も施策の充実を図り、KPIの向上をめざしていく。
③安心・快適で自立したまちづくり													
		(i) 安全・安心で快適なまちづくり	自主防災組織率	%	71.0	72.0	76.1	73.0	78.8	74.0	78.9	86.0	令和3年度の実績については、目標を達成しているが、全国平均値（令和3年度：84.4%）には到達していないため、全国平均値に近づけたい。
			人身交通事故発生率（人口10万人当たりの人身交通事故件数）	件	800	761	737	674	578	596	561	413	令和2年中は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛等により前年比で大幅に事故件数が減少していたが、令和3年はそれをさらに下回る事故件数となった。交通安全教室等の各種取組により、市民の交通安全意識が高まってきているものと考えられる。
			河川整備率	%	79.2	79.4	79.2	79.6	79.2	79.7	79.3	80.0	函渠及び、護岸の整備を行ったため、整備率が前年度より、0.1上昇している。
			汚水処理人口普及率	%	92.6 (H30)	92.7	92.6	92.7	92.9	92.8	93.7	95.3 (R7)	引き続き市営浄化槽の普及率が増加しており、一方で、汲み取り、単独浄化槽の人口減のため相対的に普及率が増加した。
		(ii) コンパクトで機能的なまちづくり	自然と都市が調和した計画的な土地利用が行われていると感じる市民の割合	%	53.2	53.2	52.7	53.2	54.8	54.2	54.9	57.3	今後も引き続き、都市と豊かな自然環境の共生が可能となるような土地利用を推進していきたい。
			市民1人当たりの公共交通機関（バス）の利用回数	回	14.1	14.2	14.4	14.3	10.7	14.4	11.6	14.7	依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続いているが、昨年よりは回復した。
			中心市街地居住者数	人	9,238	9,256	9,083	9,279	8,989	9,349	8,850	9,462	R3年度の中心市街地居住者数は前年同月比1.50%の減であるが、佐賀市全体では0.70%の減、全国は0.52%の減となっており、全国的な人口減少の傾向以上の減少幅となっている。これは、中心市街地エリア外の比較的地価が低い区域への居住（住宅・住戸の建築）が進んでいることが要因と考えられる。

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

【資料2】

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R6 (最終目標)	所見
		(iii) 持続可能な低炭素・資源循環のまちづくり	温室効果ガス排出量削減率	%	11.0	12.2	22.6	13.3	35.4	14.5	28.3	17.9	【目標達成理由】 ・電力の低炭素化に伴う電力由来のCO2排出量の減少 ・エネルギー消費量の減少（省エネ等）
			1人1日当たりごみ排出量	g/人日	1,009	1,008	1,018	999	992	990	962	964	目標達成の要因は、コロナの影響が残っていることによる事業系ごみの減少とステーションに出される家庭系ごみの減少によるが、一過性の傾向である可能性もあるため、引き続きごみ減量化策を検討していく。
			リサイクル率	%	18.2	19.3	18.3	19.6	18.6	19.8	18.0	20.5	昨年度よりリサイクル率・量とも減少した。要因としては、草のリサイクル処理業者の引き取り量の減少が大きいと思われる。目標達成のためには新たなリサイクルの検討も必要であると考える。
基本目標（2） 都市の魅力高め人を惹きつける			佐賀市に住み続けたいと思う市民の割合	%	58.0	58.0	62.0	59.2	61.6	60.4	60.4	64.0	目標値を達成したが、昨年度実績から1.2%減少した。引き続き、本市の暮らしやすさに磨きをかける必要がある。
			社会増減数	人	▲41	▲35	▲28	▲28	▲95	▲21	▲217	0	前年度から大幅な転出超過となった。20～29歳だけでなく、15～19歳においても大幅な転出超過の傾向がみられた。
①都市ブランディングの強化													
		(i) 戦略的シティプロモーションの推進 (佐賀らしさの発信)	シティプロモーションページへのアクセス数	回	2,423	2,500	5,239	3,000	15,368	15,500	20,834	21,400	「坂井市長が佐賀市の魅力を伝えます！」へのアクセス数が多く見られた。
			SNS（フェイスブック、Instagram、公式Twitter、ライン）のフォロワー数	人	25,531	26,700	31,053	27,900	41,542	42,000	46,754	48,000	新型コロナウイルス関係の情報発信をLINEで行ったことや、Twitterキャンペーンによりフォロワーが増加した。
		(ii) 市民が愛着や誇りを感じるまちづくり (シビックプライドの醸成)	佐賀市に愛着を持っている市民の割合	%	88.2	88.2	89.3	88.9	91.0	89.6	89.1	92.0	昨年度実績から減少したうえ、目標値も達成できなかった。引き続き、シビックプライドの醸成を図る必要がある。
			佐賀が好きと答えた子どもの割合	%	89.6	90.0	90.3	90.4	90.3	90.8	90.2	92.0	「子どもへのまなざし運動」を継続して取り組んできたことで、子どもたちが「人の温かさ」や「自己有用感」などを感じていると思われ、ほぼ達成水準の実績値となった。
		(iii) 街の顔となる駅前空間の形成	中心市街地居住者数（再掲）	人	9,238	9,256	9,083	9,279	8,989	9,349	8,850	9,462	R3年度の中心市街地居住者数は前年同月比1.50%の減であるが、佐賀市全体では0.70%の減、全国は0.52%の減となっており、全国的な人口減少の傾向以上の減少幅となっている。これは、中心市街地エリア外の比較的地価が低い区域への居住（住宅・住戸の建築）が進んでいることが要因と考えられる。
			主要商店街通行量	人	51,349	63,150	63,150	65,000	46,780	67,000	51,607	100,000	R3年度の通行量調査は7月29日～8月1日（4日間）に実施しており、全国的な新型コロナウイルス感染拡大期（第5波）と重なるとともに、断続的な蔓延に伴い、市民等の外出自粛や中心市街地におけるイベントの開催自粛等の傾向が続いたことから、R2年度から一定の回復はあったものの、来街者の回遊が抑制されたことが未達成の要因と考えられる。
			佐賀駅乗客数	人	12,624	12,624	12,348	12,624	8,546	12,624	9,404	12,813	新型コロナウイルス感染症拡大による行動自粛制限の影響により、駅利用者が大幅に減少した。

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

【資料2】

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R6 (最終目標)	所見	
		(iv) 自然と調和のとれた都市環境の実現	市街地のみどりが増えて景観が良くなったと感じる市民の割合	%	57.2	57.7	56.3	58.2	56.7	58.7	59.1	60.2	市民・事業者・行政の協働による緑化活動（花苗や樹木の植栽及び管理）を継続して実施し、みどりの量、質ともに向上していると考えられる。	
			水辺空間に親しみを感じている市民の割合	%	69.6	73.2	73.3	73.7	72.1	74.2	71.9	75.7	毎年の豪雨による浸水被害で市民の関心が親しみを感じる水辺空間から水害対策へ移行しているためポイントが下がったと考えられ	
		(v) 歴史・文化によるアイデンティティの形成	市内で開催された歴史関連のイベントや活動に参加または自ら取り組んだ市民の割合	%	24.6	24.6	14.9	24.7	9.6	24.8	9.9	25.0	前年度から0.3ポイント増加しているが、前年度と同様にイベント等が縮小・中止となったことが低水準の要因と考えられる。しかし、ワクチン接種等の感染対策の普及により各施設の入館者数は増加傾向にある。 ◎参考 大隈重信記念館R2：5,524人⇒R3：8,222人、佐賀市歴史民俗館（佐賀城下ひなまつり中止）R2：38,725人→R2：40,514人、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館（旧佐野常民記念館）R2：34,243人R3：15,084人（リニューアル工事のためR3年9月まで休館）	
	②交流・関係・定住人口の拡大													
	(i) 観光ホスピタリティの充実	観光入込客数（日帰り客）	万人	378.0	334.4	332.2	357.7	243.0	364.9	262.9	387.2	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光客は減少が続いた。		
		観光入込客数（宿泊客）	万人	72.1	69.5	72.6	70.2	38.8	70.9	38.2	73.1	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、インバウンド含め宿泊客の減少が続いた。		
		観光客1人当たりの消費額	円	6,568	6,601	6,588	6,634	6,601	6,667	6,561	6,768	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響下、近隣への観光が主流となり消費額に伸びは見られなかったものと推察する。		
	(ii) 特色を活かした移住・定住の促進	30歳～39歳の転入超過数	人	63	80	123	97	78	115	-1	168	例年の傾向と異なり、転出超過に転じた。コロナ禍等が影響しているものと考えられる。		
		ふるさと納税寄附件数	件	19,359	26,000	63,612	33,800	102,533	43,940	131,388	152,096	前年度と同様に目標値を大きく上回った。一方で寄附額は下がっておりアンバランスな状況を改善する必要がある。 寄附額【R2】1,610,793千円 【R3】1,495,826千円		
	(iii) コンベンションの誘致	大会等誘致数	団体	45	42	33	46	5	48	6	57	東京2020大会が開催されオリンピック・パラリンピックに出場する海外選手団の事前キャンプを受入れたものの、新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツ合宿が大幅に減少した。また、大会等の開催が見送られた。（オンライン開催への変更もあり）		
基本目標（3） 多様な人材で強い経済をつくる	納税義務者数（所得割）	人	102,360	103,384	103,421	104,417	104,261	105,462	104,813	108,657	目標値には至らないが、実績値は伸びてきている。引き続き経済基盤を強化するとともに、企業の成長を促進する。			
	市内総生産	百万円	867,985 (H28)	877,783	878,182 (H29)	877,783	896,659 (H30)	877,783	918,288 (R01)	877,783	総生産は増加傾向にあるものの、第1次産業は依然として減少傾向にある。			
①人材の育成と確保														
(i) 多様な人材の確保	就業者数（全産業計）	人	0,282(H28)	120,883	120,489 (H29)	121,488	120,724 (H30)	122,095	121,595 (R01)	123,936	昨年度より目標値に近づいており、引き続き企業誘致の推進などの施策を着実に進めていく必要がある。			

第2期佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧

【資料2】

基本目標	政策	施策	K P I	単位	実績H30 (基準値)	R1 (目標)	R 1 (実績)	R2 (目標)	R2 (実績)	R3 (目標)	R3 (実績)	R6 (最終目標)	所見	
②地域経済を支える産業の振興	(ii) 時代が求めるひとづくり	生徒（中学2年）の基礎学力の水準		-	0.77	0.78	0.84	0.79	0.74	0.80	0.76	0.83	新型コロナウイルス感染症の影響で学級閉鎖等になり、授業時間数に影響が出た学校もあったが、タブレット端末の活用など学習活動の充実を図ったことが、前年度に比べ数値が上昇した要因の一つと考えられる。	
		仕事や学校以外で、何らかの知識や技術を身に付けるための取組をしている市民の割合	%		27.9	42.4	30.0	43.9	30.0	45.4	27.6	50.0	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による活動の場の減少で、目標値より低い実績値となった。	
	(iii) 若者を振り向かせる就労機会の拡大	20歳～29歳の転出超過数	人		392	368	477	343	519	318	356	243	前年度に比べ、20代の転出超過は抑制された。しかし、15～19歳についても転出超過の傾向がみられることから、引き続き、雇用創出に係る取組を継続していく必要がある。	
		IT企業誘致数【累計】※カッコ内は単年度	社		-	3 (3)	3 (3)	6 (3)	7 (4)	9 (3)	9 (2)	18 (3)	IT企業の進出意欲は堅調であり目標達成	
	②地域経済を支える産業の振興													
	(i) 企業誘致の推進	誘致企業数【累計】※カッコ内は単年度	社		-	3 (3)	3 (3)	8 (5)	7 (4)	13 (5)	9 (2)	28 (5)	28	適地不足から製造業の誘致ができなかったため、目標を達成できなかった
		新規雇用者数【累計】	人		-	16	13	70	47	180	42	510	510	操業開始間もない、若しくは現在操業準備に際し採用活動を実施している段階のため、目標を達成できなかった
	(ii) 創業支援の強化と事業承継の促進	創業に関する相談件数	件		238	242	140	246	161	250	218	262	262	新型コロナウイルスの影響により、創業を目指す人が減っており、目標を達成できなかった
		事業承継に関する相談件数	件		44	48	83	53	60	58	76	77	77	円滑な事業承継を推進するため、早期取組の必要性和市補助金の活用について商工団体を通じて呼びかけ、目標を達成することができた。
	(iii) 中小企業・小規模企業の成長支援	年間商品販売額（商業）	億円		5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	5,746	経済センサス（H28年度確報）より算出
年間製造品出荷額等（工業）		億円		2,786	2,786	2,865	2,786	3,117	2,878	2,924	3,232	3,232	企業誘致により、目標を達成できている。	
(iv) 第一次産業の生産・流通の高度化	農業産出額	億円		242.3	243.0	221.7	243.5	231.4	244.0	223.2	245.5	245.5	米、果樹、花き等の作付面積の減少等により農業産出額は減少した。	
	木材生産額（素材生産額）	億円		1.33	1.51	1.38	1.68	1.06	1.85	2.55	2.36	2.36	【達成】目標達成率137% ウッドショック等により材価が上昇し、皆伐面積が増加したため、生産量、生産額ともに拡大した。 更に拡大できるよう、林業機械の確保や、人材育成等の支援を進めたい。	
	漁業生産額	億円		169.7	169.9	170.2	170.1	146.6	170.3	174.7	170.9	170.9	令和3年度のノリ生産は海況の影響により、県内の地域差が大きかった。幸い、佐賀市はその影響が少なく、前年度と比べ、平均単価は一枚当たり1.58円高く、販売額も約28億円の増となり目標を上回った。	
(v) 未来を見据えたバイオマス産業の推進	バイオマス等関連企業の進出数【累計】※カッコ内は単年度	社		-	2 (2)	2 (2)	3 (1)	2 (0)	3 (0)	4 (2)	4	4	令和3年度中に本庄ファームが操業し、アルビータが事業拡張地で施設を着工した。	